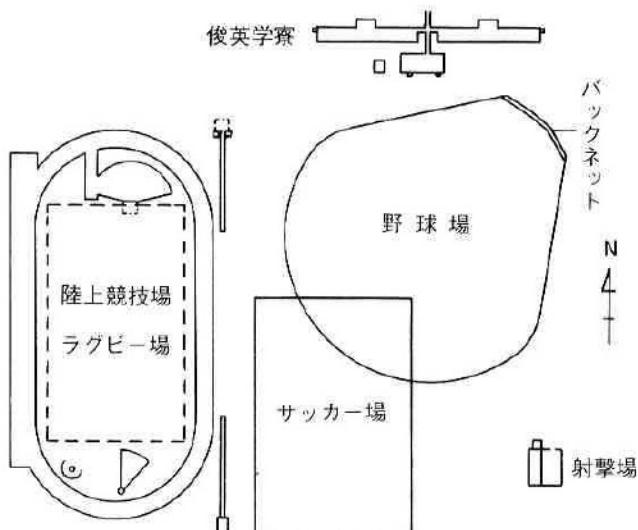
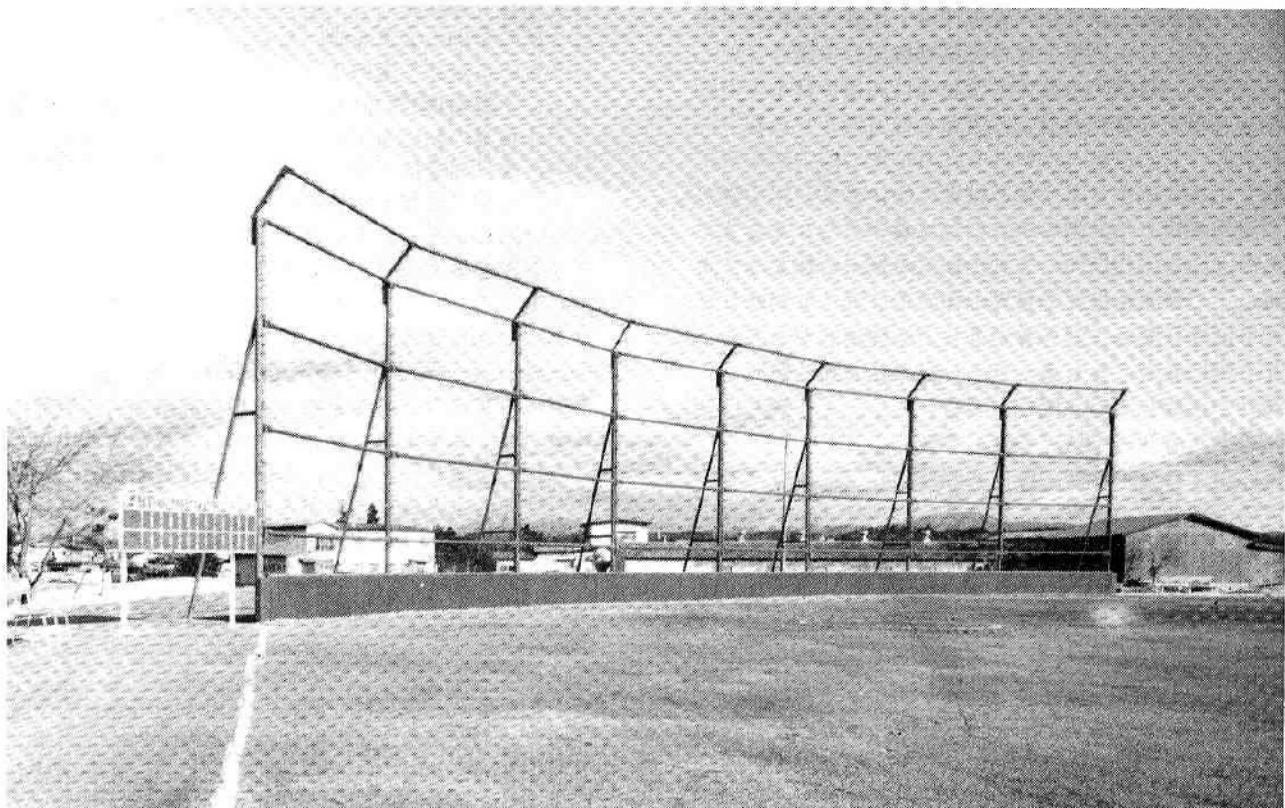




目 次

| | |
|-----------------------|-------|
| ごあいさつ(工学部長、校友会長)..... | 2 |
| 石島秀雄氏特別寄稿..... | 3 ~ 5 |
| 「母校を訪ねる会」開催..... | 6 ~ 7 |
| 校友短信..... | 8 ~ 9 |
| 同窓会だより | |
| 総合名簿の発行について | 10 |
| キャンパスミニメモ..... | 11 |
| 総会通知、図書館だより..... | 12 |



野球場、サッカー場が新設

55年9月完成の陸上競技場（ラグビー場を含む）に引続いて、野球場、サッカー場の工事が行なわれ、56年11月に完成した。

野 球 場　両翼90m、センター120m
サッカーコート 70m × 105m

既設の陸上競技場と同一レベルに盛土を行ない、表面砂質ローム仕上げとなり、これによって降雨時の排水面が改善されることになった。

ごあいさつ



日本大学工学部長
廣川友雄

本年も新たな卒業生を送り出す季節となった。昨年20,000名を越えた校友は今年更にフレッシュマンを迎えて益々その厚みを増して来たのである。そして新しい卒業生を含めて多くの校友の諸君は、これから20世紀、21世紀に亘って活躍することとなる。

近年の我が工業技術の優越性は、優秀な材料をその基盤とし、ロボットを含めた電算機分野の優れていることなど、技術そのものの優越性に加えて日本人の勤勉、合理的な実行力などによるものと考えられる。一方世界の何處に起った事件も直ちに茶の間のテレビに映し出されるような今後の世界においては、相手国の利益を無視した自國のみの利益は成り立たなくなるであろう。人の和についても、家族の和から始まって次第にその範囲を擴げて世界の和の上に立って判断しなくてはならないこともある。今後諸君がそのような立場に立つことも多かろう。現に私の知る範囲でも海外で活躍している校友が多数いるし、また新たに勉学のため海外に出掛ける者も多数いる。

昨年5月に工学部で行なわれたボリマーコンクリートの国際会議の開会式での挨拶に、私は「Our total student population is 5,000, with some 20,000 graduates now working in many parts of the world」と言ったが、さして誤りともいえないであろう。この国際会議に際しては、その後海外から共同研究を申し込まれてもいるし、今後の進展が楽しみである。

昨年の暮、本学部で行なった研究の成果により、本学部の大学院で学位授与の決まった若者が2人いた。そのうち1名は校友である。これで從来、本学部で行った研究により学位授与された者は15名となった。これらも本学部としては将来にわたり楽しみのことである。

なお報告したいことに、日本大学総合体育大会において、教職員の部で工学部が優勝したことがある。学生の部では第3位であったことと併せて、工学部のキャンバス、そこに活躍する教職員学生が、この環境を生かして身心共に健やかに成長している実証ともいえるだろう。また、校友会と学部とが共催して「母校を訪ねる会」を昨年初めて行い、これを年中行事とすることとなつた。その年度に当つた諸君が多く訪ねてこられることを楽しみにしている。

(日本大学教授、工学部校友会顧問)

“校友諸兄青春を失わず”



日本大学工学部校友会長
武田仁幸

昭和57年1月4日、私の尊敬する或る会社の会長に新年の御挨拶に参りました折の話です。御神酒を頂きながら「会長さん今年は御何才になられますか? 何時も若々しく初めてお逢いした時と変りませんが」と申しましたところ、「今年の誕生日が来れば85才だよ」こんな話をしながら次の様な話をして下さったのです。

「私の家の古文書を調べたら、8代目当主が事業というものに対して次のような格言を持つておった。

- 一、不慮の事故に注意すること。
- 一、事業の勉強をすること。
- 一、人には愛情を持つこと。
- 一、事業には競争心を持つこと。

この四つを守るように書き示るされておる。

今から240年も前にこのような考え方のもとに事業を始めたようである。武田君もこのような気持でおれば岩々として生きられるよ」

“アッハリハ”と大きな声で笑われておりましたが、事業に対しての心構えを教えられた次第で實に気分の良い一日でありました。又“帰ったら読むんだよ”と茶の封筒を帰り際に頂き、車中で開封してみると墨の跡も鮮かに次の様な一文が入っていました。

『青春とは人生の或る時期を言うのでなく、心の様相を言うので有る。優れた創造力、逞しき意志、炎ゆる情熱、怯懦を却ける勇猛心、安易を振り棄てる冒険心等こう言う様相を青春と言うので有る。

年を重ねるだけでは老いない。理想を失うとき初めて老が来る。歳月は皮膚の皺を増すが情熱を失う時に初めて老が来る。苦悶や情疑や不安、恐怖、失望こう言うものこそ恰も長年月の如く人を老いさせ精氣ある魂も芥に帰せしめる。

歳は70であろうと16であろうと其の胸中に抱き得るものは何か、曰く驚異への愛慕心、空にきらめく星辰、その輝にも似たる書物や思想に対する歓迎、事に処するに剛毅なる挑戦、小児の如く求めて止まぬ探求心、人生の欣喜と興味、

人は自信と共に若く、疑惑と共に老ゆる。

人は信心と共に若く、恐怖と共に老ゆる。

希望ある限り若く、失望と共に老ゆる。

大地より神より人より美と喜悦、勇氣と壮大偉力との靈感を受ける限り人の若さは失われない。これらの靈感と悲歡の白雪が人の心の奥底を覆いつくし皮肉の厚木がこれを固くとぎすに至ればこの時こそ全く老いて神の憐れみを乞ふる他はなくなる。』

校友諸兄どうか萌ゆる心の青春を何時までも継続されます事を希みながら御挨拶にかえさせて戴きます。

(土木工学科第3回卒、東和工業㈱・ナショナル住宅建材㈱代理店)

「21世紀の医療を志向した 神戸市立中央市民病院の設計」

(株)伊藤喜三郎建築研究所

専務取締役 石島秀雄



■はじめに

1981年3月、神戸市がその総力を挙げて日本全体にたれこめた経済不況の暗雲を吹きはらうかの如く華々しく開催した国際的博覧会「ポートピア'81」を訪れた人は皆さんの中にも多いと思う。

21世紀を象徴するかのような様々な前衛的造形、とりどりの色彩の氾濫の中に9月その幕を下ろした。

この間に会場を訪れた人は1,000万人にも達するという。実に日本人の約1割にものぼる人々がこの博覧会を見ることになる。

しかし、この華やかな博覧会場に隣り合った日と暮の先に時を同じくしてオープンした病院建築に気づく人は少ない。そしてこの病院が日本を代表する大規模病院であり、かつ21世紀の医療を志向する近代的機能を具备していることを知る人は専門家以外にはほとんどいないといってよい。



この病院は神戸市の委託によって私の事務所が建築設計と設備設計を、日建設計が構造設計をそれぞれ行ったものであるが、その総括を私が担当した。この設計チームには多数の本学出身者が加わっており、その主動力となっている。従ってこの病院はわが工学部の知識と技術の結晶であるといつても過言ではないと思う。そこで校友の皆さんにその内容の一端を御紹介するのも意義のあることと思い筆をとった次第である。

この神戸市立中央市民病院は太正13年に長田区三番町で発足し、昭和28年に生田区布引の生田川畔に移転。今回昭和56年、神戸市近代化の象徴である海上未来都市「ポートアイランド」に生まれ変って新発足した。神戸市の地域医療の中核的施設として計画され病床数は1,000床、1日平均1,500人の外来患者を見込んでいる。構造は鉄骨造、地下1階地上12階建、延面積は約60,000m²である。

■立地・環境

敷地は日本の代表的国際都市、神戸が、21世紀の都市づくりを目指して建設した海上都市

「ポートアイランド」のほぼ中央部に位置している。436ヘクタールの面積を有するこの人工の島は、コンピューターによってコントロールされる無人電車「ポートライナー」によって神戸市の都心である三宮と結ばれている。

この「ポートライナー」は高架式で、市民病院前にも高架駅が設置された。病院はこの高架駅と連絡橋によって直接連絡されている。従って来院者は少なくとも三宮駅からは一切雨に濡れずに病院まで到達できるわけである。市民生活に密着した医療活動を目指す新病院にとって、これは大きな目玉の一つであろう。

敷地は、島内のほぼ中央部に計画された市街地サービス地区の一角である。島を縦断するポートピア大通りに直接面しているが、幸いに道路に沿って幅の広い緑地、植樹帯が設けられているため病院環境の阻害はない。ポートピア大通りをはさんだ向い側のコミュニティスクエアには約20,000人の住む高層住宅群が建設されつつあり、この方面からの来院者も

多数にのぼるとみられるので、スロープ形式の歩道橋を院内まで導入し、病院と住宅群が大通りを越えて直結されるよう配慮している。敷地は全体で約50,000m²であるが、関連施設の看護婦宿舎、市立看護短期大学環境保健研究所等の建設のため約20,000m²がそれに割かれ、病院敷地は約30,000m²となっている。

■ 設計上のねらい

設計上のねらいと建築的特徴は主として以下のようなものである。

1. 全体計画・構成

この病院の形状はきわめてコンパクトな機能集約型である。平面の基本形は、高層部では、中央の軸である縦交通シャフトから4つの病棟が四方にクローバーの葉の如く突き出た点対称型プランである。下層部では、その葉の間がつながって正方形のセンターコア型プランとなっている。

全体としては、病棟も診療棟も管理棟もなく、すべての機能が一つのブロックに凝縮された形体となっている。このような1ブロック形式は、小規模病院にはしばしばみられる建築形体であるが、1,000床クラスの大規模病院としては珍らしいケースであろう。

発想の原点はいうまでもなく動線の短縮化である。設計の初期において設定された基本方針の一つに「病院のどこからでも2分30秒以内に専門医がICU・CCUの患者のもとに到達できること」というのがあった。この2分30秒はアメリカなどではゴールデンタイムと呼ばれしており、心臓が停止してから脳死に至るま

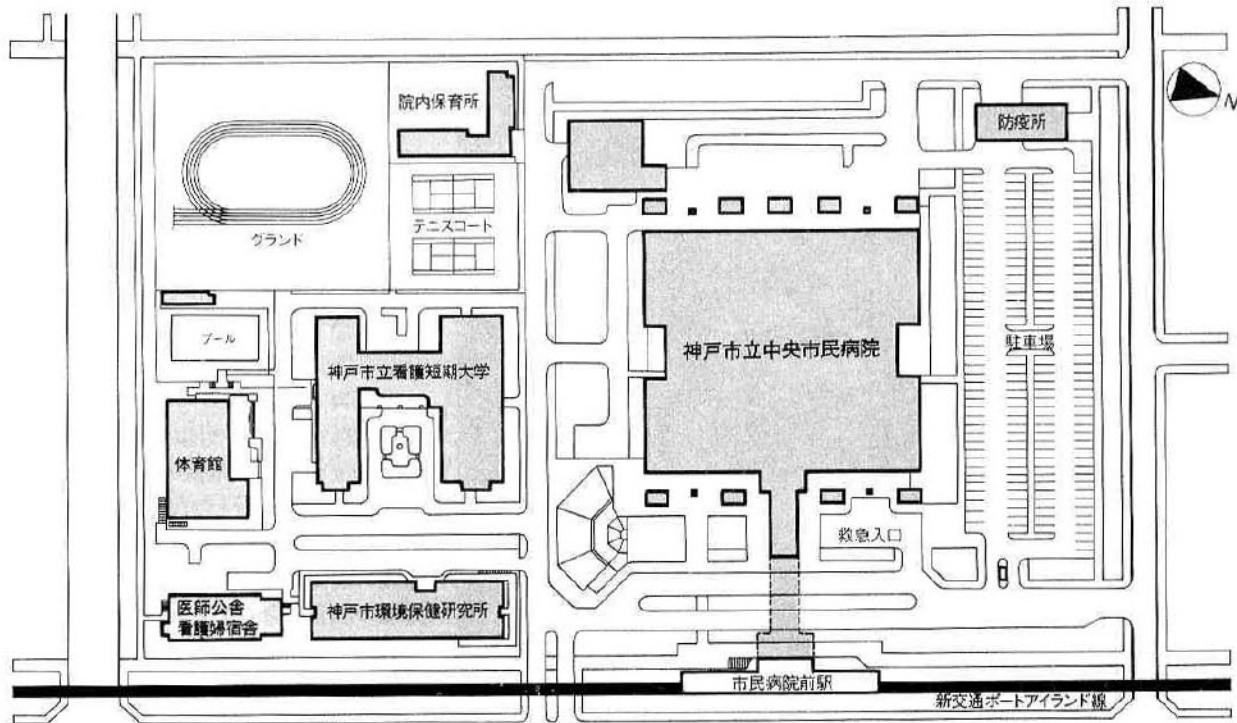
での時間である。すなわち、一旦心臓が停止しても現代の医療はいろいろな装置を適切に駆使すれば再び患者を蘇生させることが可能である。しかし2分30秒を過ぎると蘇生せること自体が難かしくなるし、4分経過すると脳細胞が完全に死亡し、たとえ蘇生せ得たとしても脳に損傷をきたして後遺症が生じるといわれている。この要素をふまえて前記の基本方針が設定されたわけである。60,000m²、1,000床の大規模病院の全施設を半径50mの範囲内にすべて収容し、この基本条件を充たすには、この建築形体しかなかったともいえる。

部門構成は高層部が病棟、中間層が管理部と中央診療部、低層部が外来診療部とサービス部となっている。中央材料部、洗濯部、薬剤部等は大きく物品集中管理部と名付け、外部からの材料搬入をも考慮し1階に配置している。

高度な清潔管理が必要とされる病院の中でも、特に高水準の清潔度が要求される手術部、ICU部、血管造影部等は清潔区画として4階に集中して配置している。管理部は病棟と診療部の中間の5階に配置している。

外来診療部は2階である。前述の新交通システム「ポートライナー」の高架駅と連絡橋によってこの階をつないだ。外来者の8割はこの「ポートライナー」で来院している。放射線診断部の撮影関係諸室及び採尿・採血室等もこの階に設置し、ほとんどの外来患者はこの階のみで用が足りるよう配慮している。

配置図



2. 大スパン構造と I.S.S. (設備階)

この病院の設計上の大きな試みの一つに大スパン構造の採用がある。建物の軽量化の必要もあって主構造を純鉄骨造としたことが大スパン構造をやりやすくなかった。スパンの長さは16.40mと22.40mの2種類である。これによって、平面計画の柱による制約を大幅に免がれることができた。更に2階と3階の間、4階と5階の間に I.S.S. (設備階) を二層設置したが、これは大スパン部分の梁を平行トラス形式とし、そのせいの部分を設備階として利用したものである。わが国の病院建築における初めての本格的 I.S.S. の設置例である。

3. アイコントラクト方式の病棟

この病院は病院全体が高度医療の実施を目指した I.C.U. 的機能をもつ。標準的病棟もこの思想に添って計画されている。標準病室は4床室であり、平面はナースステーションを中心とし、その周囲を病室が取り巻くセンターコア型プランである。ナースステーションは廊下との間に仕切りのないオープンな形式である。病室も廊下との間は大きなガラス窓であり、ナースステーションから病室の患者の様子が看視できるよう配慮されている。

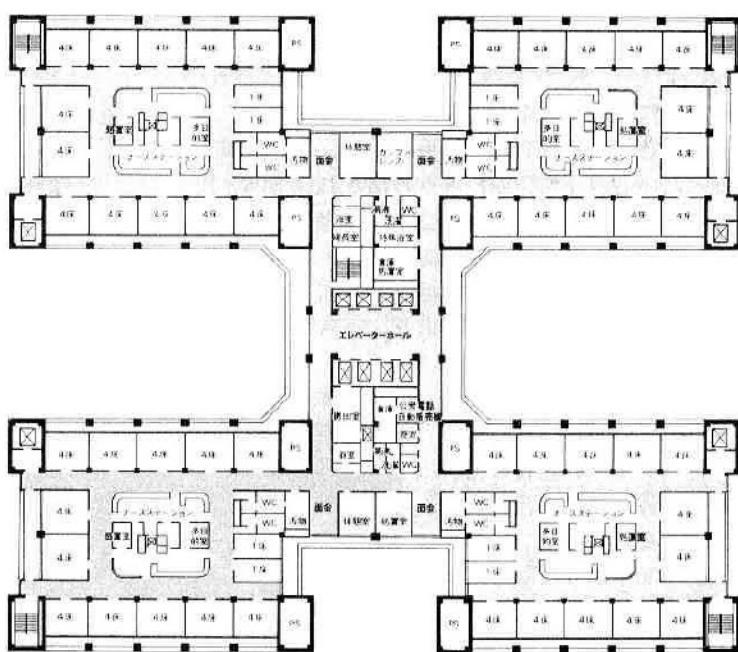
4. 物品搬送の自動化

この病院の設計は初期の段階から終始一貫して物品搬送の自動化を念頭におきつつ行われた。建築の形体も物品搬送の経路の内付けとして生まれてきたといつてもよい。コンテナーワゴンによる大量物品用と自走式台車方式による少量物品用の2機種の設置により院内物品搬送の90%を自動化した。詳細について興味のある方は『建築画報』154号を参照せられたい。

5. インテリアデザイン

この病院のインテリアには、床、壁、サインを中心についへん強烈な色彩が用いられている。病院建築の色彩としては多少常識はずれの部類にはいるかも知れないが、あえて挑戦したという感じである。原色に近

基準階平面図



い数種類の色がアクセントカラーとして使用されているが、これは単なるアクセントではなく、この病院が点対称の平面になっているため、中にいる人々が自己的の位置の錯覚を起こす恐れがあり、それを防止する意味をももっている。結果的には明るく陽気な感じのインテリアになったと思う。

■おわりに

この病院の設計において、われわれは上記の他、全面的カーペットの使用等、いくつかの新しい試みをした。いずれも、現在の日本の医療事情からみれば一般には実現困難な提案であったと思う。にも拘らず神戸市当局はきわめて前向きの姿勢で取り組んでくれた。

設計担当者として良き設計環境に恵まれたことに感謝している。今後校友や学生の中に見学、資料提供等の御希望があれば喜んで応じたいと思っている。

(建築学科第3回卒業)

(株)伊藤喜三郎建築研究所

本社 東京都千代田区紀尾井町3番23号文芸春秋ビル (03)263-1481㈹
東北事務所 仙台市本町一丁目9番12号山忠ビル (0222) 22-3098㈹

13名の卒業生が活躍中です。

| | | |
|--------------|------|--------|
| 石島秀雄 (専務取締役) | 建築学科 | 第3回卒業 |
| 影山 謙 (常務取締役) | タ | 第3回 タ |
| 庄司 勉 (構造部長) | タ | 第6回 タ |
| 坂根輝彦 (積算部次長) | タ | 第9回 タ |
| 中島康之 (構造部課長) | タ | 第13回 タ |
| 秋葉征二 (総務部次長) | タ | 第14回 タ |
| 早田雄司 (設計部主任) | タ | 第19回 タ |

| | | |
|--------------|------|--------|
| 田中一夫 (設計部係長) | 建築学科 | 第20回卒業 |
| 中野正敏 (設計部主任) | タ | 第20回 タ |
| 後藤和博 (構造部主任) | タ | 第21回 タ |
| 城島正信 (設計部) | タ | 第24回 タ |
| 若本武三 (構造部) | 大学院 | 第26回 タ |
| 湯浅一典 (構造部) | 建築学科 | 第27回卒業 |

第1回「母校を訪ねる会」を開催

全国各地から36名が馳せ参じて……

昭和25年に初めての卒業生を出してから約30年、卒業生が全国各地で活躍している現状から、一度母校を訪ねてみたいと言う希望が校友から出され、学部と校友会が共催で、「母校を訪ねる会」を実施した。

56年11月3日、学部祭の期間をねらい、第1回として、専門部1～2回、第2工学部1～3回の407名に通知し、そのうち36名の出席があり、家族同伴の人も5組ほどあった。

当日は朝から学部祭で賑わい、大勢の見物人の中に「訪ねる会」のメンバーもそろい昼食の後、広川学部長、外木前学部長の話があり、武田会長挨拶の後に、懇談に入り、25～30年ぶりの師弟同輩の再会に有意義な時を過した。また資料室には、当時の学生の顔写真も展示され、若かりし級友に思いを馳せた。（会の様子は寄稿文で想像して下さい。）

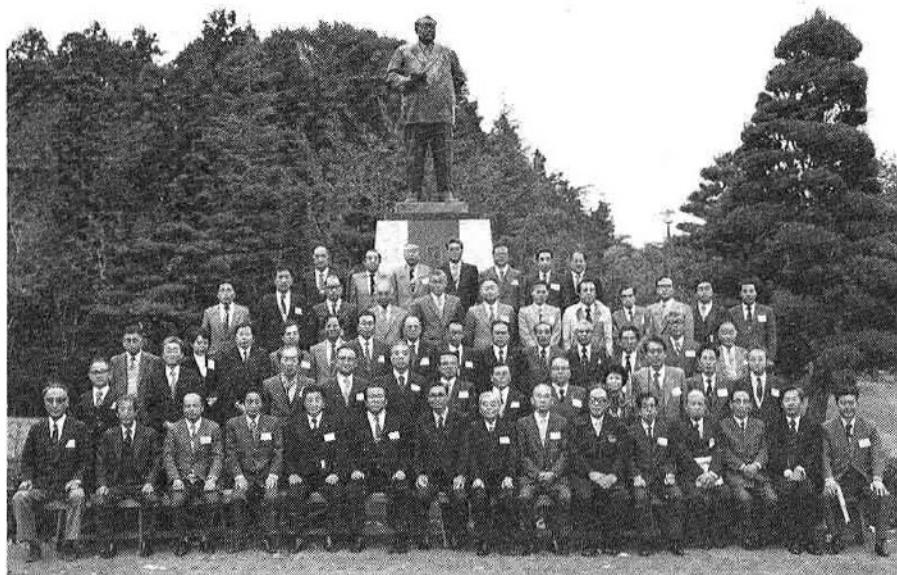
今回は計画してから実施まで日数が足りず、充分のもてなしできず事務局としても汗顏のいたりでした。

この会を定常化し、57年11月には、第2工学部4～7回の卒業生

に声をかける予定にしていますので、該当の人はお互に今から準備をしていて下さい。

学部祭は毎年11月初めに開かれており、該当しない人でもお出でになって何ら差しつかいありません。多くの人が母校を訪ねるよう希望しています。

この会は、工学部の教職員の方々と校友会の役員の方々の多大のご協力によって行なわれたことに、感謝します。



母校に寄せて

鈴木栄一

「母校を訪ねる会」では30余年ぶりに恩師の皆様方及び旧友と再会でき、本学の発展充実ぶりをさまざまと拝見し感慨ひとしおのものがあります。

戦後、日大工科が移設されるという報に早速友人達と胸をときめかせた青春、河の流れが足元から見える貨取橋、下駄でガタガタ歩いた木造兵舎での勉強、巾広い年代の学生達との出会い、まだ耐乏生活の中での学生生活であったが、角帽をかぶり俺は大学生だという自覚と誇りが研究活動に、演劇部活動、地方への映画巡回に………郡山の街を闊歩させたと思います。

学生自治会で本部へ出向き吉田先生に実験設備の充実を訴えたことも脳裡を去来します。

郡山に初めてできた大学、それは戦後の郡山に新しい知性を与え礎を築いたものと言えましょう。私も郡山っ子ですが本学に学んだ一人としての誇りと自信が現在の自分を支えているものと確信しております。

今回は貴重な写真集、数々の資料まで賜わりプラス

バンド演奏による栄誉礼までうけ感激にひたることができ、今でも髪の変らぬ広川先生はじめ教職員校友会役員の皆様の並々ならぬお骨折に心から感謝申し上げ国際的に発展した本学が今後も凡ての分野において指導的役割を益々發揮されるよう又、校友諸氏のご健斗を祈念してやみません。昭煥の……口づきみつづ。

（専門部電気工学科第1回卒、郡山市立安積第1小学校教頭）

「母校を訪ねる会」に出席して

堀江光郎

去る11月3日に行なわれた母校第31回北桜祭に際し、学校当局と校友会共催による第1回母校を訪ねる会が催され、私もお招きを受け出席しました。私は昭和26年専門部2回目の卒業生ですが、卒業以来30年ぶりに校舎の内外を見学し、当日の懇談会において、広川学部長より母校が今日まで発展してきたあらまし、学園の現況説明等の挨拶を受けました。母校が現在名実共に立派な学園になり国際会議迄行なわれるようになった事を聞いて驚きました。また資料館に案内され中に

入ると、在校当時の木造校舎模型・通い慣れた貢取橋、授業、実習中の諸写真・冬期間教室の暖房に使用した大きな角火鉢・学校新聞・故古田理事長の像等、その他数々の当時の貴重な資料が陳列されており、これらを見ているとき、まさにタイムトンネルにでも入ったように、当時応援団員になり空手部に一時入った事、厚生部で売店を営んだ事、専門部廃止転校問題のとき学生自治委員として本校の故古田理事長（当時事務長）の處に先輩と団体交渉を行った事等数々の学生生活が思い出され、次々と目に浮かび感慨無量でした。私は昭和51年に長男在学中に一度学校を訪れ、専門部在学当時の外木先生（前学部長）と面談し、今回はまた在学当時の広川先生（現学部長）、遊佐先生方とお話を出来て、なつかしく、楽しい一日でした。

このたび広川学部長をはじめとして、学校当局ならびに校友会の武田会長ほか関係者のご配慮により私たち専門部卒業生が、工学部校友会組織に専門部会員として迎えられた事を拝聴しましたが、私を初め専門部卒業生一同嬉ばしい事と存じます。今後共校友会の発展に協力して参りたいと存じます。今回の催しを初回とし毎年卒業年次を区切り、母校を訪ねる会が続けられると言う事ですが、どうか盛大に持続されるよう願います。終りにあたり工学部ならびに校友会の益々の発展を祈念いたします。

（専門部土木工学科第2回卒、福島県真野ダム建設事務所長）



母校を訪ねる会に出席して

星 雄太郎

母校を訪ねる会開催のご通知をいたゞき、大喜びで11月3日、早起きして、横浜から日帰りで出席致しました。私共の学んだ、昭和28年頃の旧校舎は、立派な校舎にかわり、北心斎は櫻並木から位置を推定できるのみになり、外観内容とも全くすばらしく変わっているのに目をみはり、時の経過と、誇らしさを感じられました。そして、あちこちに、自己のもつ昔日のイメージにあるものと、今、目の前にあるものを結びつけようと夢中でした。諸先生のお元気なお姿に接し、また先輩、友人に28年振りにお会いできたことは、大き

い人生の感激がありました。記念館内の展示を見たり、近況を話したりして、時のたつのを忘れ、たのしい一刻をすごしました。見学は電気の一部分しか、できませんでしたが、時間があったら、すべて見学したいと思いましたが、とても残念でした。帰りの車窓から、阿武隈川畔に立つ、日大に、益々のご発展を祈りました。

いただきました、資料、特に新名簿をもとにしまして、おかげさまで、28年振りに、東京参宮橋に於いて、電気の第1回クラス会を開催できました。

会の開催に、お骨折いただきました諸先生方、および校友会の幹部の方々に厚くお礼申しあげます。どうぞ今後とも、御指導賜わりたく、お願い申し上げます。

（電気工学科第1回卒、日本工営株横浜工場 品質管理部長）

母校を訪ねる会について

酒 井 饒

私が母校を訪ねたのは、今度で2回目になりますが卒業して27年になろうとしており、なかなか訪ねたくとも実現出来ないのが現実かと思います。今回このような催しがあってこそ実現出来たものと感謝しております。さっそく会長の案内で校内を歩きながら27年前の施設を思い浮べつつ、現在のキャンパスのすばらしさには、驚きの目で見廻して来た所です。その内資料館には貢取橋、木造の校舎、火鉢等が写真なり実物として残っているのは大変なつかしく拝見して参りました。このような施設の内外が年々充実されたのも、先生方初め関係者各位の並々ならぬご努力の賜と心強く感じております。

今回の母校を訪ねる会を催したことによって、「百聞は一見にしかず」と言う諺があるように、認識を新たにしましたし、非常にPRになると思います。

今後もこのような訪ねる会を重ねて戴き又このような良い環境の中で存分に施設を生かして、立派な学生が単立つことを期待しながら帰省しました。

（土木工学科第3回卒、いわき市役所下水道課課長）



写真説明：前ページ：古田重二良先生の銅像の前で全員記念撮影。左：挨拶する武田校友会長と左へ外木先生と広川先生。右：懇談会風景。

校 友 短 信

土木工学科

◇安藤茂光（旧姓石井）（専1回卒、日東建設㈱東北支店次長）

日頃校友会の運営について誠にご苦労をかけております。私も54年5月に建設省阿仁川ダム事務所長（東北地建）を最後に官界を去り、現在第二の職場で頑張っておりますので、今後ともよろしくお願い致します。（54. 9. 30受）

◇大竹清四郎（専1回卒、神奈川県西部漁港事務所所長）

去る6月の異動で上記の勤務になりました。工学部校友会に専門部工科の卒業生も加えられ、誠に有難く感謝する次第です。

（56. 8. 29受）

◇斎藤久雄（専1回卒）

昭和28年3月に日本大学法学部政治経済学科を卒業し、木材薪炭販売業・漬物加工業・不動産業を経験し、現在酒類小売業を経営しています。

（56. 9. 9受）

◇松永 稔（専1回卒、会津若松市役所建設部部長）

日本大学工学部校友会が母校発展に努力されていることに深く感謝しています。今回、専門部会員としての加入がされたことに対し慶ばしい次第です。現在、工科校友会会津方部会の会長をしています。

（56. 7. 15受）

◇吉田 力（専2回卒、福島民友新聞社郡山支社長）

今春、現職に着任。母校から300メートルのところに自宅を新築、年内完成の予定。これまでご無沙汰であった分を埋め合せたいと張り切っています。よろしく。

（56. 10. 22受）

◇北御門義広（10回卒、沖縄開発庁沖縄総合事務局北部国道事務所長）

転勤により昨年12月に沖縄にきました。福岡での校友会九州支部発足の折は熊本勤務でしたので参加しました。今年6月の宜野湾市でのアカシヤ会には出席しました。桃原隆、大城晃、新城康男、親泊元高、平良武雄といった諸先輩方が中心となって、沖縄支部に向けて準備中です。

（56. 8. 20受）

◇緑川吉雄（15回卒、日本灘青工業㈱道路業務部工事課長）

現在、東関東自動車道宮野木舗装工事作業所長として、57年3月末の開通に向けて作業に従事しています。

（56. 10. 7受）

（校友会の事務局へのお便りや、連絡などから
無断で掲載いたしました。ご了承下さい。今
回は、古いお便りも掲載いたしました。）

◇手塚公敏（16回卒、東電不動産管理㈱測量部）
小生、合氣道部OB会長をやっております。OB会名簿ができたらお手数でも送って下さい。
(56. 9. 21受)

建築学科

◇斎藤 一（専1回卒、丸石工業営業本部民間営業部課長）

昨年は大変なつかしい名簿を見ました。昭和22年に日大が郡山に移転したとき第1期生として入学した当時を思い出し、青春時代がなつかしく思い出されます。卒業以来、母校を尋ねる事も出来ませんが、日大及東北高校卒業生が入社いたして居りますので、様子を聞いている次第です。校友会の皆様の御健斗をお祈りいたします。

（55. 3. 21受）

◇松井鎮夫（16回卒、㈲久米建築事務所）

毎日仕事にわかれ、四苦八苦しておりますが、校友会報はなつかしく読んでおります。自動車部のOBですが、OB会の方も活発に勤めております。今OB会員は307名で、毎年、現役の指導援助等も行っております。近々東北新幹線も開通し、益々郡山も近くに感じられるようになりましたので、阿武隈川の高架橋の上から、学部を一度見てやろうと楽しみにしております。

（56. 10. 20受）

◇小山田正明（16回卒、日立木材地所㈱建設部）

校友会報で母校のようすをいつも拝見していますが、ますますの繁栄に、かけながら応援しております。昨年から、日立製作所の関係で変電所建設のため、そのプロジェクトの一員として図面作製のために中近東（アフリカ）へ出張して先日帰国しました。

（56. 6. 26受）

◇草深 明（18回卒、住友建設㈱東京支店建築工事部）

勤務のかたわら、世田谷区卓球連盟理事もやってがんばっています。

（55. 4. 24受）

機械工学科

◇一瀬謙二（15回卒、菅原工業㈱）

当社との合弁企業のPT. KYB. INDONESIAに出向することになり、家族ともども今秋赴任します。会社はジャカルタにあり、三輪車用フロントフォー

ク、オイルクーラーと自動車用のショックアブソーバーを製造しており、従業員は約400人です。

(56. 10. 29受)

◇池田智則 (24回卒、農中市立第5中学校)

中学校2年生の担任として奮闘しています。輝く瞳をもつ子供達との生活は毎日が新しいことの連続です。この個性豊かな子供達の心を裏切らないためにも、もっと学ばなくてはと感じさせられています。

(56. 6. 8受)

◇藤尾隆志 (26回卒、株)シギヤ精機製作所)

校友会報が来るとなつかしく楽しく読みでおります。今の職場は円筒研削盤などの工作機械を作っている技術部で設計をやっています。忙しい毎日ですが、実に充実しています。

(56. 9. 19受)

電気工学科

◇斎藤 学 (専1回卒、福島日産自動車株管理本部総務課長)

現在、勤務のかたわら、学校法人福島成蹊学園理事、日本ソフトボール協会理事、東北ソフトボール協会副理事長、福島県ソフトボール協会副会長、県北ソフトボール協会会長、福島県体育協会理事、県北体育協会理事などやっています。

(54. 10. 1受)

◇森尾 嶽 (専2回卒、福島県立郡山北工業高校)

さて本日は「工学部広報」「校友会報」をお送り戴きありがとうございました。今日の大学の雄姿を見聞するにつけ、我々在学当時と較べて正に隔世の感があります。「広報」の「工学部三十年の歩み」はほんとうになつかしく拝見致しました。兵舎を改造した校舎、授業風景、珍鳥橋、入学式をした体育館等々が目に浮んで参ります。又、学部昇格に際して、東京の駿河台より測定器具等をリュックに入れて運んだこと、その帰りに台風にあい珍鳥橋が取外されて渡れなかったことなどなどが次々に想い出されます。新制学部昇格により専門部は私共2期生で終り大部分は学部3年に編入されました。(P23の写真)が、私共電気工学科の場合は11名だけは旧専門部で卒業しました。この11名は結果が固く、2年おきにクラス会を開いて集まり本間先生を囲んで旧交を暖めております。母校の益々の発展を祈念しております。

(54. 9. 3受)

◇山田 篤 (13回卒、九州安宅機械株中国プロジェクト室課長)

昭和50年から55年の間、ブラジルに駐在していました。現地の日大校友会も活発に活動しています。5年ぶりに帰国し、一変した日本の様子におどろいています。

(56. 11. 9受)

◇田中芳照 (15回卒)

台北美上美(タイホクミツミ)股份有限公司嘉義工廠に在職しています。元気にやっています。

(56. 10. 29受)

◇青木輝宏 (18回卒、株)宝製作所)

現在シンガポールに家族共々赴任し、営業活動をしております。

(56. 11. 2受)

◇金子通孝 (19回卒、立石電機株三島工場製造工課)

最低限でも卒年別に前後数年の卒業生一覧でも良いですから、数年毎に定期的に卒業生名簿を送って下さるようお願いします。

(55. 3. 31受)

◇小山内博範 (22回卒、COOPERATIVE POWER ASSOCIATION)

フーゴのノースダコタ州立大学院を出て、ミネソタ州の電力会社のエンジニアをやっています。妻子もアメリカ人なので、アメリカの市民権をとるつもりです。中村伊作先生や松浦先生には長らくごぶさたしております。

(56. 6. 25受)

◇永岡源一 (23回卒、伊東市立南中学校)

地元静岡県の中学校教員として可愛い中学生に囲まれながら頑張っています。日大OBとしての誇りを忘れず、今だに校歌を口ずさんだりしています。今になってお世話になった先生方のご苦労を痛感しています。激動の教育界です。教師としての道をしっかりと抱き、日大の中道の精神を忘れず努力しています。

(56. 10. 19受)

◇岡本 豊 (26回卒、東洋警備保障株西支店)

当社の職種は、警報設備のシステム設計・施工・保守・開発および無人店舗の自動制御、遠方監視システムの設計・施工・保守・開発です。興味のある方は私の所にご一報下さい。

(55. 11. 4受)

工業化学科

◇稻葉俊光 (12回卒、吉田工業株黒部工場)

現在イタリーに出向しています。58年頃迄の予定です。会社名は Yoshida, Mediterraneo, S.P.A. です。

(56. 10. 27受)

同窓会だより

専門部土木1回生同級会

五十嵐 博

月日の経つのは本当に早いものです。昭和25年3月に学び舎を竣工して、早や30余年が過ぎ去り、戦後の荒廃した国土もすっかり復旧され、学校もおもかげがみられない程立派な校舎に生れ変わってしまった。

先般第3回の同級会を岳温泉で昭和49年7月6日～



7日にわたってひらいた折に、専門部で一緒にいた杉内先生の御好意で学校内を案内してもらいました。杉内先生の説明では近年中に建物が老朽化し危険なため遂次とりこわし、面目を一新したい旨のことであった。

われわれの希望としては永久に保存していただきたかったのであるが、手を加えても限りがあり、どうしようもないとのことであった。

我々の同級会は、東京方面と県内と互に連絡をとりあって過去6回を数え、開催場所を変えながらおこなっておりますが毎回夜のふけるのも忘れて語り合っております。なお、今回(56年10月3日～4日)の同級会は福島市飯坂の「みちのく荘」でひらき、18名の出席がありました。(郡山市役所建設部)

沖縄地区同窓会

平 良 武 雄

56年6月、宜野湾市で第1回同窓会を開き、26名が出席しました。追い追い充実していきたいと思いますので、皆様のご協力をお願いします。

大鎧建設株

平良武雄です。

(建築学科第12回卒)



総合名簿(昭和57年版)の発行について

今まで校友会報でお知らせしてきましたように、総合名簿は、昭和50年に発行したままになっておりますが、電算機による処理も一応軌道にのってきましたので、57年9月をめどに発行する予定で準備をしております。しかし、まだ未登録の人が約5000人程いますので、その人達からの新規原稿の送付を待っているところです。

今回の総合名簿は、該当者約22,000人で、大体400～450ページになるものと予想されます。それで配付方法を理事会で協議した結果、経費も多大に嵩みますので、希望者に有償でお分けすることになりました。

代金は郵送代も含めて2,500円です。この総合名簿の希望者は、6月頃まで、この会報に同封してあります「振替用紙」により、郵便局から送金して下さるようお願いいたします。それを申込書といいたします。一人でも多くの人が希望されるように願っています。

校友会活動の原点は、正確な会員名簿の作製にある

と思っています。事務局としても、これを最優先として努力しています。しかし、会員のご協力がなければ完成することはできませんので、

1. まだ新規原稿を送っていない人は大至急送って下さい。
2. 勤務先、住所などに変更のあったときは、直ちにお知らせ下さい。電算機へのメンテナンスは容易にできるようになっています。

以上の2点についてのご協力をぜひお願いします。

また、総合名簿には「広告」も掲載する予定ですので、このことについても何分のご協力をお願いします。事務局にご連絡下されば詳細にお知らせをしたいと思っています。

(事務局)

CAMPUS

mini MEMO

◆工学部長に広川教授が再選

広川友雄工学部長の任期が、57年3月末までであるため、1月末に後任学部長の選出があり、広川現学部長が再選されました。

広川友雄教授は、一般教育科（物理学）に、昭和22年6月から勤められ、郡山移設当時から教鞭をとつてこられました。

◆外木先生が郡山市文化功労賞を受賞

機械工学科の外木有光教授は、56年11月3日に、郡山市から郡山市文化功労賞を受けられました。

「広報こおりやま」によりますと

「日本大学工学部教授として、終戦後、混迷期の学舎を守り、さらに次の世代を担うエンジニアの育成に多大な努力をされ、日本大学工学部の基礎づくりに尽力し、大学教育の振興に貢献。また私学教育、専門教育の振興に専念されるとともに教養豊かな人間教育につくられ、本市学校教育の振興に寄与されました。」

となっております。校友会会員一同の誇りとして、先生の受賞を喜びたいものです。

◆新田・中鉢先生が定年退職

それぞれ定年になられ、退職されました。

新田 亮（土）昭29.3.10～昭56.12.4

中鉢禎一（電）昭25.8.15～昭56.11.17

長い間のご薰陶に対して、会員一同、感謝いたしたいものです。

◆尾股定夫君らが工学博士に

日本大学大学院工学研究科では、論文提出による工学博士の学位を、56年12月18日付で授与した。論文博士の第5、6、7号です。

工学博士 星川 洋

電磁誘導を利用した非破壊試験に関する研究

工学博士 平山和雄

触媒反応を利用する超微量金属の吸光光度定量に関する研究

工学博士 尾股定夫

公害用振動ピックアップの設置共振に関する研究

尾股君は工学部電気工学科の20回卒、大学院工学研究科の3回修、49年から母校に勤務し、現在専任講

師。平山氏は51年から工学部に勤務し、現在専任講師。

◆第24回学術研究報告会開催

この報告会は56年12月21日に日本大学工学部で行なわれた。発表件数は、121件であった。

工学部の教員や大学院生、研究生による発表が主であったが、当校友会会員で、現在、工学部とは関連のない職場の人による発表は、次の2件であった。
「越波する重複波の波頂高、越波流量および伝達波の相関について」

日大生産工 遠藤茂勝（上14回卒）
「シリコーンゴムの揮発成分の抑制について」

朝日ラバー 横山林吉（化24回卒）

この学術研究報告会は、毎年1回12月頃に行なわれており、一般校友の参加も可能であり、それらの詳細は、校友会事務局に問い合わせて下さい。

◆硬式野球部だより

東北大学野球選手権大会が工学部の主管で56年8月25日から開成山球場で行なわれた。結果は

日大工 8—1 弘前大

日大工 2—1 青森大

準決勝 日大工 2—11 秋田経済大

で、3位入賞した。（硬式野球部提供）

◆東北新幹線開通近し



57年6月23日に開通予定。この写真は1月27日に、図書館の屋上から眺めたもので、体育馆の向うの阿武隈川のあたりを快速する新幹線の試運転車の状況で、大宮—郡山間は70分の近さになります。

(た)

昭和57年3月1日

日本大学工学部校友会

会員各位殿

日本大学工学部校友会

会長 武田仁幸

昭和57年度総会通知

校友の皆様には、各職域において益々御健斗のこととお慶び申し上げます。

さて本会会則第28条により、日本大学工学部校友会昭和57年度総会を下記により開催いたしますので、先輩、後輩お誘いあわせの上多数御出席くださるよう御案内申し上げます。

記

1. 日時 昭和57年4月24日(土) 午後3時
2. 場所 日本大学郡山研修会館(郡山市愛宕町2-22) TEL(0249) 23-4193
3. 議題 昭和56年度会務及び決算報告、昭和57年度事業計画及び予算(案)審議、その他
4. その他
 - (1) 諸般の事情により、本号に掲載の上記案内によって総会通知といたしますのでご了承ねがいます。
 - (2) 総会終了後、引き続き同所において恩師を迎える懇親会を予定しております。
 - (3) 研修会館宿泊希望の方は5日前までに母校庶務課(TEL 0249-44-1300代)に申込んでください。

図書館界の動向について

近年の学術研究の急速な進展に伴い、その成果として生産される学術情報量は急激に増大してきた。今日、世界で流通している学術文献は、年間に数百万件にのぼるといわれ、10年間に倍増する傾向にある。これらの情報は、内容や利用の形態などにおいても多様化している。このような時代において、利用者に対していかに迅速に、そして的確に情報を提供するかということが、図書館に課せられた重要な課題である。

そこで、昭和56年12月31日現在の、本学部図書館が所蔵している図書館資料であるが、図書が136,862冊、学術雑誌が約2,000種、そのほかマイクロフィルム等視聴覚資料をも所蔵している。この中には、昭和47年から現在までに、貴工学部校友会から毎年寄贈いただいている図書費440万円で購入した図書をも含まれている。心から御礼申し上げます。本学部図書館では、この4月から開架閲覧方式を実施することになった。開

北海道支部

支部長 三上 茂(機8回)三上建設㈱
事務局長 藤林義広(土17回)札幌市役所交通計画課

東京支部

支部長 古村和夫(土3回)古村建設㈱

東海支部

支部長 平野 卓(土3回)建設省中部地方建設局
丸山ダム管理所
事務局長 河野 叶(土6回)東名開発㈱

九州支部

支部長 川越 正(専土2回)東急道路㈱九州営業所
事務局長 陶山順一(建15回)陶山建設

架閲覧方式というのは、利用者が実際に書庫に入り、自分が利用したい図書を自由に書架からとりだして利用する方法である。この方法は、図書の有効かつ迅速な利用を目的としております。また、本学部図書館では、本学部卒業生の図書館利用をも大いに歓迎しております。利用方法は、図書館窓口備付けの「図書館入館証」に必要事項を記入して申込んで下さい。ただし、館外貸出は原則として行っておりません。

それでは今、図書館界はどのような動きをしているかを少し紹介してみよう。現在、文部省において昭和59年度後半に事業開始を目指す学術情報センターシステムの設置を準備中である。このシステムのねらいは①急激に多量化・多様化している世界の学術情報を研究者が迅速・的確に得られる方策を確立すること。②学術情報活動における外国との格差を是正すると共に国内の研究成果を人力提供して国際的な学術情報流通の一翼を担うこと。③各大学・機関において蓄積されてきた人的・物的な資源の再開発や相互利用を前提とした有機的なネットワーク構造の総合的学術情報流通体制を効率的に構築することである。要するに図書館活動は、もう自館だけでは図書館機能を果し得ぬ時代になったということである。本学部図書館も時代の趨勢に乗り遅れないよう体制づくりに努力しているところである。また、卒業生諸兄の研究活動の一翼を担えればと思っております。

(工学部図書館事務課長補佐 神村 哲美)

校友会報第39号

発行所 日本大学工学部校友会
福島県郡山市田村町徳定字中河原1
郵便番号 979-66
電話番号 郡山(0249)44-1327
振替口座番号 郡山1990
発行日 昭和57年3月1日
発行者代表 会長 武田仁幸
編集者代表 事務局長 佐藤光正